

中学校第 2 学年 国語科学習指導案

単元名 キャッチコピーを付けて魅力を伝えよう

教材名 「君は『最後の晚餐』を知っているか」 著者名 布施英利（光村図書 中学校 2 年）

「西洋絵画の鑑賞事典」 著者名 佐藤晃子（永岡書店）

「いちまいの絵 いきているうちに見るべき名画」 著者名 原田マハ（集英社）

1 単元について

(1) 生徒観

本学級の生徒は、6 月の説明的文章の学習において、問題提起及び具体と抽象に着目し文章の構成を捉えることを学習している。また、文章構成や論の展開に着目し、筆者の主張を捉える学習も行っている。第 1 学年においては、美術の資料集に掲載されている作品について、観点を決めて鑑賞文を書く学習にも取り組んだ。学習に対しては大半の生徒がまじめに取り組むが、全体の前で自分の意見や考えを表すことを苦手になっている生徒が多く、教師の解答や他者の発表を待つ傾向が強い。4 月に行われた学習状況調査では、「読む」においては県平均に対してほぼ差はなかったものの、活用に関する問題の無解答率が高く、正答率が低い傾向にあった。文章について自分の考えを持ち、他者に伝える力を高める学習に取り組んでいるところである。

(2) 教材観

本単元では筆者の絵画の見方について、複数の文章を比べながら自分の考えを持つこと、その考えを分かりやすく他者に伝えることを目標としている。何かを評価し、他者に紹介する力を身に付けることは、商品や自分の企画を他者に勧めるなど、生徒のこれからの生活において必要な力だと考える。「君は『最後の晚餐』を知っているか」は評論文であり、これまでに学習してきた説明的文章と比べ、書き手の個性や価値判断が強く反映された文章となっている。筆者はレオナルド・ダ・ヴィンチの絵画「最後の晚餐」を「かつこいい」と一言で評し、専門的な立場から分析した根拠を述べている。学習指導要領の指導事項、読むこと（エ）文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを持つことに対応した教材となっており、筆者の絵の見方と複数の文章を照らし合わせながら、自分の絵の見方について考えをまとめられることが期待できる。また、自分の評価を印象的な一言で分かりやすく伝える好例となっている。

(3) 指導観

本単元の学習課題を「筆者の絵の見方に自分の考えを持つため、評価の根拠に着目し複数の文章を比べ読みし、パンフレットに付けるキャッチコピーを作る」と設定した。筆者の絵の見方をそのまま受け入れるのではなく、『最後の晚餐』について書かれた複数の文章を比べながら読んで、自分の考えを持たせる。また、それを分かりやすく伝えるため、キャッチコピーを付けて紹介する活動を設定した。まず、キャッチコピーについて、日常の中でどのようなものがあつたかを確認する。また、自分がどのような点で絵を評価しているかを確認する。次に教材文について、筆者が絵画をどのように見て評価しているのかを確認する。さらに、同じ最後の晚餐について書かれたそれぞれの文章について評価の根拠を確認しながら読み、共感できるかどうかを問い、自分の絵の見方と比較させ考えを深めさせたい。

2 単元の目標

- ・絵の見方について複数の文章から根拠を読み取り，自分の考えを持つことができる。（読むことエ）
- ・自分の考えを印象的な言葉を用い，分かりやすく相手に伝えることができる。（伝国オ）

3 単元の言語活動

- 複数の評論文を読み比べ，絵の見方について自分の考えを深める。
- キャッチコピーを作成し，絵画の魅力を紹介する。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
① 筆者の絵の見方に関心を持ち，複数の文章を比較して考えようとしている。	① 筆者の根拠である絵画の科学について整理している。 ② 絵画を評価することについて自分の考えを持っている。	① 目的に応じて，説明の仕方に違いがあることを理解する。

5 指導と評価の計画（全 6 時間）

次	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準〔 〕 評価方法【 〕
一	1	1 「最後の晩餐」やレオナルド・ダ・ヴィンチについて知っていることを発表する。		【学習計画表】
		2 学習課題，学習計画を知る。		
		〔学習課題〕筆者の絵の見方に自分の考えを持つため，評価の根拠に着目して複数の文章を比べ読みし，パンフレットに付けるキャッチコピーを作る。		
		3 キャッチコピーの例を確認し，短い言葉で印象的に表現する効果を確認する。	○身近にあるキャッチコピーを想起させ，その効果を実感させる。	【言①】 身近にあるキャッチコピーを挙げ，その特徴を把握することができる。
		4 優れたキャッチコピーの条件を確認する。	○「短いことば」「意外性」「感情に訴える」「たくさんの意味を推論できる」「表現技法」	【ワーク①】
		5 教材を読む。		

二	2	6 本文を読み，絵画の科学を電子黒板を利用して確認する。 7 絵画の科学と視点の移動をワークシートに整理する。	○本文に合わせ，絵画の科学が用いられている箇所を提示する。 ○再度電子黒板で絵画の科学が用いられている箇所を提示していく。	〔読①〕 筆者の根拠である絵画の科学について用いられている部分やその効果について整理している。 【ワーク②】
	3	8 修復後の「最後の晚餐」について書かれた部分を読み，「かっこいい」と感じる根拠をまとめる。	○修復後と再現CGを比べ，どちらがいいか，まず自分で評価させる。 ○根拠として前回と合わせて二点挙げられていたことを確認させる。	〔読①〕 筆者が挙げた根拠を読み取って書いている。 【ワーク③】
	4	9 「最後の晚餐」について書かれた複数の文章を読み，印象的な一言とキャッチコピーを書く。 10 絵の見方についてどれに共感できるかを話し合う。	○それぞれの文章で印象的だった一言を見付け，キャッチコピーを考えさせる。	〔関・意・態①〕 絵画の見方について書かれた複数の文章を比較し，考えようとしている。 〔読②〕 印象的な一言とそれを使ったキャッチコピーを書いている。 【ワーク④】
三	5 本時	11 「最後の晚餐」についてキャッチコピーを付けて紹介する。	○印象的な一言をヒントカードで用意する。	〔読②〕 絵について感じたことを根拠とともに書いている。 〔言①〕 優れたキャッチコピーの条件を理解している。 【ワーク⑤】
	6	12 他人の考えを知り，自分の考えを広げる。 13 単元全体を振り返り，この単元で付けた力についてまとめる。	○クラス全員の作品を読み，自分の作品と比較して，絵の見方について考えを深めさせる。	〔読②〕 絵の見方に対する自分の考えを深めている。 【ワーク④⑤⑥】

6 本時の指導計画（5／6時）

(1) 目標

キャッチコピーを付けて絵画を魅力的に紹介する。

(2) 本時の評価規準

ア 「最後の晚餐」を見て感じたことを，その根拠とともに書いている。〔読む能力②〕

イ 優れたキャッチコピーの条件を理解し，自分の作品に生かそうとしている。

〔言語についての知識・理解・技能①〕

(3) 展開

	学習活動	教材 資料	指導上の留意点	評価規準〔 〕 評価方法【 】 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 前時の振り返りを する。 2 本時のめあてと活動 を知る。	学習計 画表	○それぞれの文章で絵のどん なところを評価していたか 振り返る。	
	本時のめあて パンフレットにキャッチコピーを付けて絵を紹介しよう。			
展開	3 自分が感じた「最後の 晚餐」の魅力を挙げてい く。 4 優れたキャッチコピー の条件を復習する。 5 一番伝えたいことを 入れたキャッチコピー を作る。	ワーク シート ワーク シート	○なぜそう感じるのか根拠も 説明させる。 ○「短いことば」「意外性」「感 情に訴える」「たくさんの意 味を推論できる」「表現技 法」を確認させる。 ○幾つか挙げた中から一番伝 えたいことを選ばせる。 ○「カッコいい」「奇跡の一作」 のような印象的な一言にな るように指示する。	【読②】 絵について感じたことを 根拠とともに書してい る。 【ワーク⑤】 ヒントカードで評価す る言葉や感じたことの 一覧を示す。 「美しい」「怖い」「不思議」など

展 開	6 現時点でどのような ものができているか発 表する。			【言語①】 優れたキャッチコピーの 条件を基に推敲してい る。
	7 グループで見せ合い 推敲をする。		○優れたキャッチコピーの条 件を確認させる。	【ワーク⑤】 前回作ったものと部分 を入れ替えるだけでも 良いことを伝える。 例「かっこいい」を「不 思議な」に入れ替える。
ま と め	8 本時の振り返りと次 時の学習内容の確認を する。		○絵の見方について考えが深 まったか振り返りをさせ る。	